



善正寺だより

掲示板法話

「人生は苦なり」と知らされ

乗り越えて生きる

青空にこいのぼりが泳ぐ季節。おかげさまで初孫の初節句を迎えました。有縁の皆様から温かいお祝いのメッセージを寄せられ、有難うございます。早々に『育爺』宣言をして息子夫婦に迷惑がられそうですが、「どんな子に育て欲しいか?」と問われれば、「苦勞をいとわず、学び続ける人になって欲しい」ということです。「その心」は何でしょうか?

何が起こるか分からないのがこの世です。これは、昨年3・11以来我々日本人が痛烈に思い知らされた事実です。しかし、数え切れないほどの悲劇の中から生き残った人々の中で、苦難を乗り越えようと前向きに立ち上がった若者がいます。

大震災から一年後の宮城県気仙沼市の追悼式。八人家族の中でただ一人生き残った十八歳の女子高生・三浦美咲さんは「家族と会える日が来るまで、精一杯生きていく」と震えるような声で追悼の言葉を述べました。ひいおばあさんに祖父母、両親に妹二人、四世代、八人でのにぎやかな暮らしから一変、

一人きりになってしまったのです。

七人一緒の葬儀を出すため、遺影の写真を探しながら、「家族がいて、友達がいる、明日が来る。当たり前であることがいかに幸せか」を知ったという。震災後、沢山の人から「強いね」「偉いね」と言われた。しかしながら、「本当にすごいのは、そんな私に育ててくれた家族です」と言う彼女の言葉に、人間教育の大切さを知らされます。知識教育より人間教育が大事なのです。

教育は知識を伝授すること、それが学校の役割だと思込んでいる人が多い。しかし、人間教育をおろそかにした知識教育偏重の世の中が如何に多くの害悪をもたらしたのか?

この少女は、失ってみて初めて「家族の慈愛の中で育てられた自分自身」に気がついた。だから「一人になっても一人きりでない自分自身」に目覚め、生きる意味を発見できたのでしよう。何より注目すべきは、「また会える日がくる」という言葉です。お浄土という言葉は出てきませんが、「懐かしき人々(家族)から待たれる世界」を彼女は確かに



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

◇5月20日(日)総会 & 公開法座

午前10時 門信徒総会 出欠票委任状回収、昼食あり

午後1時「公開法座」お誘い合わせてお参り下さい

講師:石川欣也先生(大和郡山市)

終了後新旧行事さん交代の会食・世話方さんもお出席下さい

◇キッズサンガ 5月12日(土)午後4時より、今回は2週目
お友達も誘ってきて下さい。 毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 5月8日(火)午後1時半 智積 西勝寺様
善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設3年8ヶ月で6万9千訪問、一日平均80以上!

◇ご案内予告 6月23日(土)午後5時より 生桑 ユラックス
「亮爾誕生祝賀会」3時半寺にバス迎え、入浴後祝宴、ご夫婦の参加大歓迎!親睦会も兼ねています。奮ってご参加を!
〔三重組行事案内〕

☆5月13日(日)午前・午後「三重組十三日講」
京町法泉寺様(谷間徹誠先生)

☆三重組仏教講習会、
6月14日午後 西勝寺様、15日午前午後 浄覚寺様、
16日午前午後 暁覚寺様(講師 末本弘然先生)



持っています。具体的に宗教教育を受けたとは言えないけれど、この子を育てた家族が、宗教教育につながる人間教育の場であったことは確かでしょう。

「人生は苦なり」(釈尊)と知らされ、苦勞をいとわず乗り越えて生きていく。そんな子に育てて欲しい。それが「育爺」の願いです。

平成24年度今後の主な行事予定

◇5月20日(日)午前は門信徒総会、午後1時「公開法座」講師石川欣也師(奈良)お誘いあわせてご参拝を!

◇「秋季永代経」8月18(土)・19(日)午後加藤正人師(桑名)

◇「報恩講」11月2日午後1時半と夜6時半・3日午前10時・午後1時三全仏婦報恩講 講師大畠信隆師(岸和田)

今年から報恩講が11月に変わりますので、よろしくお願ひします。

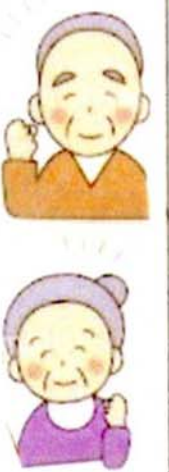
◇「秋勤進」11月23日午前

◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜

写真上から、生後一週間目の亮爾と長男夫婦。次男新居の入仏法要。

坊守スケッチ

『余生』も元気はつらつイキイキ人生



不安と孤独な毎日を通り過ぎる高齢者、目先の楽しみだけを追求するのは何故か空しいものです。先生の生き方は、私に大きな感動を与えてくれました。

☆寄稿

☆初孫に 四日市市 川崎 孝一
男子誕生 菩提所の号外見るや 安堵の門徒

☆亮爾さま「爾」の字を継いで初参式
育翁の待つ 出番愈々

☆千年の いにしえ偲ぶ 恭仁宮
大極殿の 礎石に立てば

☆行き摩りの 香に誘われし 梅圃
もはや咲き初めて 白く静もる

☆折角の 甘いますくにマスクかけ
物言う目には 物言い渋る

☆春の雨 赤いよだれ掛け 六地藏
☆吾子の顔 見たさに まだか梅の花

♪三重組コーラス♪

☆練習場所・智積 西勝寺様
5月8日(火)・午後1時半

☆キッズサンガ・杉の子合唱団
5月12日(土) 午後4時より

友達を誘って来てね! 鐘撞きは年中
無休で夕方5時。ご褒美にガムや飴

☆ホットニュース☆

☆4月21日(土) 初参式に7名の赤
ちゃんとその家族が参拝。仏婦の皆様
が賑やかに祝いして下さいました。

「定年後は好きなことをして余生をのんびりと過ごしたい」という声をよく聞きます。これから紹介する昇地三郎先生は現在105歳。医学博士と文学博士の称号をもち、教育学者として長年働かれました。現在もなお、世界各国で講演や障害児教育活動を続けて、数年先までスケジュール一杯です。

「私の人生に余生などない。命果てるまで社会に役立つ仕事をしてこそ生きがい。そのために毎日心掛けています。『長寿十訓』がある」と、その熱意は少しも衰えることはありません。先生が毎日実践している生活習慣とは、

① 先ず笑顔、② 冷水摩擦、③ 棒体操、④ 外国語講座を聞く、⑤ 一口30回かむ、⑥ 口八丁手八丁足八丁、⑦ 新聞をよく読む、⑧ 手紙の返事はすぐ書く、⑨ 日記をつける、⑩ 硬いマットで寝る。この中で⑤番目のよく噛むという生活習慣は、幼い頃虚弱体質だったので、お母様から厳しくしつけられたもの。『三つ子の魂百まで』と言いますが、母親の慈愛に満ちたしつけが、わが子の人生を決める大きな要因でした。

先生の偉大な功績は、昭和29年度障害児施設『しいのみ学園』をいち早く設立されたことです。戦後の混乱期、行政の補助もなく、世間の関心も薄かった時代の挑戦でした。「科学に限界はあるが、愛情に限界はない」と

いう信念で、私財を投げ売って施設を建設されました。先生がこの活動を始めるにきつかけとなったのが、二人の息子さんの存在。長男は脳性小児麻痺、次男も重度の障害を持って生まれました。医者から見離されたわが子を、何とか歩かせるようにしつけ、学校に通わせましたが、ひどいイジメに遭いました。そこで「イジメのない学校を作ろう」と夫婦で決心しました。

学園の名前の由来は、奥様の拾った小さな椎の実。人や獣に踏みつけられ、水と太陽の光があれば必ず芽を出します。障害のある子供達にも、生きる力を身につけさせたいという願いが込められた名前でした。

しいのみ学園の始業の鐘は、長男の担当。歩くのが不自由な子供達を見て、一つずつゆっくり撞きます。「僕が早く撞くと、その子達は遅刻してしまう。最後の鐘は全員が入った時に終わる」。その結果遅刻者は一人もいず、長男もその仕事に誇りを持ちました。同じ目線に立つ人の温かな思いやりが感じられます。しかし残念なことに、二人の息子さんは早く亡くなり、最愛の奥様も83歳で先立たれました。

昭和54年から養護学校が義務教育化され、昇地先生の負担は軽減されましたが、その後も恵まれない人々のために世界を奔走されています。

☆6月23日(土)「亮爾誕生祝賀会」

午後5時より祝宴 生桑 ユラックス於

バス迎え3時半善正寺駐車場、4時より入浴可、ご夫婦での参加大歓迎!

☆新刊本「縁会テレホン法話」4冊目の本「心おきなく迷っていきける」発売中!

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設3年8ヶ月で6万9千アクセス突破1日平均80訪問。悩み相談メールでも歓迎。

☆「塩こうじ」料理にハマっています。万能調味料として人気沸騰中の塩麹。発酵健康食品として注目。肉や魚を漬けて込んでフライパンで焼くだけ、野菜も漬物代わりに最適。美味しいレシピ。ご存知の方、ご一報下さい。

☆次男夫婦の家に新仏壇をお迎えしました。新生活のスタートは朝夕手を合わせ、拝みあう家庭から!

お悔やみ申し上げます

★長谷川裕子様(3月18日亡・68歳 津市) 合掌

★服部まさ子様(3月26日亡・77歳 八幡町) 合掌

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第二二二号をお届けします。◇震災瓦礫の広域処理が進まな

い。震災直後の「頑張ろう東北」の掛け声はどこへ行ったのか? ◇根拠なき風評被害に惑わされる無責任な大人たち。一方前を向いて苦難を乗り越えよ

うと歩み出す若者たち。◇孫の顔を眺めつつ逞しい子に育て欲しいと願う。どうぞよろしくお願い致します。合掌。

今年の端午の節句は初孫亮爾の誕生で思い出深い
一日になりそうです。その節には皆様からお祝を頂戴
して有難とうございまして。おかげ様で順調に育っています。
先日ある青年が仕事上の悩みで相談に訪れました。
核家族で二児の父親。職場の中堅社員として働いて
いましたが、不況で正社員は減らされる一方、残った正
社員に仕事のシフト寄せが課せられます。気の弱い性格
の彼は、断わることもできず、能力以上の仕事に悲鳴を
上げていました。そんな時に機械の不具合で突然スト
アして袖が機械に巻き込まれました。近くにいた先輩
に助けを求めましたが責任逃れから現場から立ち去
りました。幸い遠くの仲間が危険を察知して助けたく
れて一命をとり止めました。この事故は彼一人の初歩的
ミスとして処理され上司から厳しい叱責、自分を見捨て
た先輩も憎んで人間不信になり、過重労働からうつ状
態に陥りました。「あなたも大変だったのね」と言いた途端
彼は涙を流しました。「僕は人前で泣くのは初めてです」
後日「休暇をとって家族と過ごします。少し元気が戻りました」
とメール。若者の職場をとり巻く環境は年々厳しく
なっています。まじめに働く人々が心身の余裕を取り
戻せるように、これのからも違った視点から生き方を
見直す相談相手になれればいいなあと思います。ところで
5月20日(日)午前総会・午後公開法座(石川欣也先生
皆様のご参詣お待ち申し上げます) 合掌

平成二十四年五月

善正寺坊守 拝